

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

総主事交代 第15代総主事に星野太郎氏



▲代々の総主事の名が記されている聖書を、新総主事に引き継ぎました（左から）菅谷淳前総主事、古賀博牧師、星野太郎新総主事



◀125人が出席し、厳肅な中にも温かみのある式が行われました



ミニコンサートで演奏する飯靖子氏（左）と高等学院トーンチャイム部



東京YMCA総主事の菅谷淳氏が任期満了により3月末で退任し、4月1日付で星野太郎（ほしのたろう）氏が第15代総主事に就任しました。

3月29日、日本キリスト教団霊南坂教会にて「総主事就退任式」を開催。125人の出席者が見守る中で「聖書引継ぎ」を行い、誓約が交わされました。司式は日本キリスト教団早稲田教会・東京YMCA評議員会会長である古賀博牧師で、「ひび割れた世界のなかで」と題した説教をいただきました（左下）。奏楽はオルガニストで本会理事の飯靖子氏が、司会は本会理事の榎原正人氏が務め、日本YMCA同盟総主事・田口努氏とぐんまYMCA理事・深町稜氏より祝辞をいただきました。

また、式に続いて、飯

靖子氏と東京YMCA高等学院トーンチャイム部によるミニコンサートが行われました。清らかなトーンチャイムの音色と荘厳なオルガンの調べが礼拝堂に響き、新たな船出にふさわしい華やかなひとときとなりました。

総主事就退任式での菅谷前総主事と星野新総主事の挨拶を要約し、ご紹介します。

退任挨拶

菅谷 淳

本日をもって、8年間の総主事任期とYMCAでの39年の歩みに幕を閉じます。私は企業勤務を経て、親友と恩師の推薦でYMCAに迎えられ、英語専門学校でYMCA職員としての道を歩み始めました。

その後、とちぎYMCAで「会員が担うYMCAの真髓に触れ、YMCAは単なる職場ではなく、隣人愛を実践する運動体である」と実感しました。「悲し涙の傍にいるのがYMCAの働きだ」という教えは、今も深く心に刻まれています。

東京YMCAに戻った際は、財政難に直面していましたが、多くの方の尽力により、2013年度に19年ぶりの黒字化を達成。本部移転や大規模な改修工事を実施しました。現在も厳しい状況は続きますが、新しい世代のリーダーがしっかりと舵を取っています。

何より感謝を伝えたいのは妻です。私の都合で転勤を重ねましたが、一度も文句を言わず、行く先々でYMCAとワイズメンズクラブの活動を楽しんでくれました。彼女

の支えなくして今日の私はありません。これで私のYMCA人生は一区切りとなりますが、これからも舞台の袖からYMCAを応援し続けます。皆さま、長年のご支援に心から感謝申し上げます。今後とも東京YMCAをどうぞよろしくお願いいたします。

東京YMCA総主事を拝命いたしました。大きな期待と責任をひしひしと感じるとともに、この務めにおいて神様に用いていただけることを心から感謝いたします。東京YMCAが歩んできた歴史の重みと、そこに注がれてきた先達の信仰を深く受け止め、YMCAに連なる皆さんと共に力強

就任挨拶

星野太郎

前任の菅谷総主事は、東陽町の事業再編と本部機能の移転を通じて、東京YMCAの財務体質を健全な方向へと導いてくださいました。また、コロナ禍という未曾有の危機においても、冷静で的確なリーダーシップをもって、私たちの持つ復元力を最大限に引き出してくださいました。

こうして整えられた土台を大切にしながら、新たな歩みをその上にしっかりと積み重ねていくと考えております。社会の変化はますます激しく歩を進めてまいりま

さを増し、東京YMCAが向き合うべき課題も日々複雑化・多様化しています。私の使命は、そのような課題を的確に捉え、皆の力を結集してこれに向き合っていくことです。

その中心に据えたいのが中期計画です。2030年の創立150周年を期に、目指す社会と東京YMCAのあるべき姿を描くべく、昨年、中期計画策定委員会が発足しました。ユース世代を中心に、会員・リーダー・理事・評議員・職員が加わり、これまで16回にわたって活発な議論を重ね

ています。若い世代の熱い思いと、企業経営や社会課題に取り組む他団体の立場からの鋭い視点

が、議論を活発にし深みを与えてくれています。会員をはじめさらに多くの人たちの声もここに反映させながら、まもなく整うこの中期計画を旗印に力を集めていきたいと思っています。

「文化が失われる」と危惧する人もいます。▼では「外国人」と「日本人」はどう見分けるのだろうか。日本国籍の有無？日本語を話せるか？「あんな目の色、肌の色は日本人じゃない」と、外見で判断する人もいます。▼実際、ほんご学院には日本国籍の学生もいた。「日本人なのに日本語学校に入学するの？」と思った自分に驚いた。逆に、日本語を母語としても日本国籍ではない人もいます。外見も多様だ。▼もし、日本人と外国人の違いがあるとしたら、日本に在留する「許可」の有無だろうか。日本に暮らす外国人は、学ぶ、働く、住むなど、在留する理由と目的と許可が必要となる。

▼生い立ちや話す言葉、外見では見分けがつかなくても「ここで安心して暮らしたい」と思う気持ちはある。▼「永住ビザが許可されたので郊外に家を買いました。ローンが大変です。でも子どものためにもがんばります！」と流暢な日本語で話す卒業生と会った。複雑な思いもあったが、嬉しかった。（医療福祉専門学校 校長 小野実）

総主事就退任式説教「ひび割れた世界のなかで」

日本キリスト教団早稲田教会 古賀 博 牧師

聖書の箇所より「神は多種多様な人々を必要としている」というメッセージを受け、私たちの生き方や関りに生かしていきたいと思います。

星野新総主事のお父様である星野正興牧師の著書『風に吹かれて散らされて』に、白一色のエルサレムの教会に対しアンティオキアの教会はパッチワークだと記されています。パッチワークは、素材や形、色の異なる端切れを縫ってつなぎあわせ、個々の違いを生かして美しい布を作り出すもの。教会も同様で、人間の苦悩や喜びなどが集まり、キリストという糸でつながれて、予期せぬ素晴らしい模様ができるのです。

「縦の糸はあなた 横の糸は私 織りなす布は いくつか誰かを暖めうるかもしれない／いくつか誰かの傷をかばうかもしれない」は、中島みゆきさんの名曲『糸』の歌

詞です。縦糸は、決して切れてはならない要の糸です。星野新総主事が東京YMCAの軸と考えるキリスト教を縦糸、東京YMCAで共に活動する者を横糸として織りなす布が、いつか誰かを暖め、傷をかばうことができるように願います。

『編むことは力～ひび割れた世界のなかで、私たちの生をつなぎあわせる～』という本の帯に「糸と針と勇気があれば、何度でも編み直せる。セーターも人生も、分断されたこの社会も」とあります。戦争で人命が奪われている、このひどくひび割れた世界に必要なのは、結びあわせること、つなぎあわせることではないでしょうか。

多様な人々と痛みや苦しみを分かち合い、支え合いながら生きるYMCAの活動を、星野新総主事と共に進めていきたいと願っています。（まとめ・広報室）

赤△三角

にほんご学院在任時に痛感したことがある。現代日本社会は外国人の存在抜きに成り立たない。一方で、外国人が増える

2025年度

東京 Y M C A 運営方針

2025年度はYMC Aを構成するさまざまな人たちと2030年の姿を共有し、その実現のために共に歩み出すスタートの年と位置付けます。そして東京YMC Aの使命に基づき、VISION2030の4つの柱を基本方針として全ての事業と活動に取り組んでいきます。

〈基本方針〉

I . Community Wellbeing コミュニティ ウェルビーイング	すべての事業・活動をととして、青少年と地域社会に、精神、知性、身体の調和のとれた成長を促す機会と一人ひとりが大切にされ安心・安全に過ごせる場を提供します。
II . Meaningful Work やりがいのある働き	すべての事業・活動において、若い世代が主体的に関わる機会、また支援者や賛同者が関わる機会を創出し、YMC Aに参画する全ての人がやりがいをもって協働することを目指します。
III . Sustainable Planet 持続可能な地球のために	すべての事業・活動において、気候変動に配慮した運営を行い、持続可能な地球のために一人ひとりができることを提唱し実践します。
IV . Just World 公正な世界の 実現のために	すべての事業・活動において、あらゆる差別や偏見、不公正を取り除き、地域と世界に平和で公正な社会が実現するための取り組みを進めます。

事業運営にあたって

2025年度の東京YMC Aは、自らのアイデンティティを次のように確認しつつ事業や活動を計画し展開していきます。

第一に私たちは、キリスト教の理念に基づいてその働きを進める団体です。聖書に学び、また祈りをもってその働きを進める機会を大切にします。

第二に私たちは、若い世代にフォーカスしてその働きを進める団体です。ユースが主体となって活躍する機会を創出し、ユースを取り巻く社会や地域の課題に向き合い、若い世代の豊かな成長を積極的に応援します。

第三に私たちは、願いを共有する支援者・賛同者と協働する団体です。会員、ワイズメンズクラブ、専門家、企業や行政などパートナーとの協働の可能性を常に模索し、YMC Aの働きを拡げ賛同者を増やしていくことを目指します。

第四に私たちは、働きを担う一人ひとりの「より良い生き方」と「働きがい」を大切にする団体です。ひとりの「より良い生き方」が他者と地域社会をより良くし、「働きがい」が協働や賛同の輪を広げていくことを自覚します。

2025年度

新体制紹介と
各事業部のビジョン

2025年度の東京YMC Aは、5つの事業部、会員部、賛助会・募金／FD室、ならびに本部事務局から成る組織体制です。各責任者の紹介とともに、本年度の取り組みについて聞きました。



東京YMC A副総主事
／「ウェルネス事業部」
統括 松本竹弘

副総主事を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いたします。

今年度は東京YMC A創立150周年を見据えた計画の具体化を進めながら、各部門の専門性を生かし、社会の中で果たすべき役割をより明確にしていく一年となります。全体の連携や組織づくりの観点から、現場での実践がより良く機能するよう支えていきます。

また、心と体、人と人のつながりを大切にしながら、すべての人が安心して過ごせる場づくりに取り組みます。特に、いのちと向き合う活動や、若い世代の可能性を引き出す機会を増やしていきたいと思えます。変化の時代だからこそ、人に寄り添う東京YMC Aの役割を信じて、一步一歩進んでまいります。

ウェルネス事業部としても、VISION2030



このたび、東京YMC A
学校法人東京YMC A学
院学院長／「国際・
総合教育事業部」統括
松本数実

30の方針のもと、健康と生きがいを支える活動を一層強化します。野外活動を通じて自然と触れ合う機会を増やし、いのちの大切さを感じられる体験を提供するとともに、ユースボランティアリーダーの育成に力を注ぎ、若い世代が主体的に活躍できる場を広げていきます。また、幅広い利用者層の受け入れを推進し、企業や団体とのパートナーシップを強化することで、より多くの人々に開かれた健康の場を創出します。さらに、「自分のいのちを大切に」「みんなのいのちを大切に」をテーマに、ウォーターセーフティの啓発にも積極的に取り組んでまいります。

新たな挑戦を重ねながら、より良い未来の実現を目指してまいります。



A学院学院長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いたします。

少子化の影響で日本では、多くの学校が苦難の中にあります。YMC Aが行う教育が今後多くのの人から求められ、選ばれるよう、まずはスタッフ、教員自らが考え、主体的に行動をおこしていきたいと思えます。変化の激しい時代、将来何が起るかわからない予測不能な時代に必要な教育とは何なのか、常に問い続けます。

また、国際・総合教育事業部統括の役割も引き続き兼任いたします。グローバル化の波は加速化しつつあり、今の幼児や小学生が社会人になる頃には自らの考えを表現でき、英語を使いながら多くのの人たちと共生、協働していかなければならぬ社会が今より更に進んでいるものと推測します。VISION2030を見据え、YMC Aの総合力を生かした教育を実践していきます。



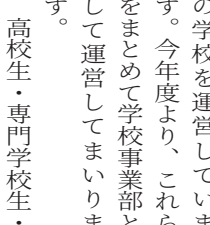
「地域福祉・居場所事業部」
統括 岡田ナスカ



「子どもが愛されている」
「教育・保育事業部」
統括 齊藤希世

行政協働事業を通して「一人ひとりがありのままでいられる社会、助け合える、助けられる社会、誰も取り残されない共に生きる平和な社会」の実現を目指します。

子どもも大人も一人ひとりの人権が保障され、多様な考えや文化・ルーツ、価値観を互いに理解し、おおらかに受け入れ合う、心地よい居場所を共に生み出していくことが、若者やボランティアが主体的に活動できる環境を整え、地域の活力となるような次世代の担い手を育成する取り組みを強化すること。すべての施設でBCP（事業継続計画）を整備すること。職員育成を通して事業の質を高め、社会課題を見据えた新たな事業展開を模索すること。以上を重点項目としつつ、2025年度も誰もが安心して暮らせる社会の実現に向けて取り組んでまいります。

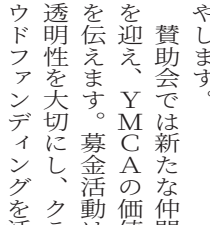


「子どもが愛されている」
「教育・保育事業部」
統括 小畑貴裕

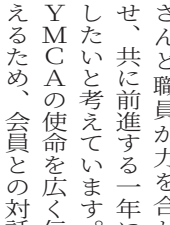


東京YMC Aでは、「国際ホテル専門学校」「社会体育・保育専門学校」「医療福祉専門学校」「ほんご学院」「高等学院（通信制高校）」の5つの学校を運営しています。今年度より、これらをまとめて学校事業部として運営してまいります。

高校生・専門学校生・



「子どもが愛されている」
「教育・保育事業部」
統括 堀 雄二



2025年度は、「VISION2030」と「東京YMC A中期計画」の実現に向け、会員の皆さんと職員が力を合わせ、共に前進する一年にしたいと考えています。

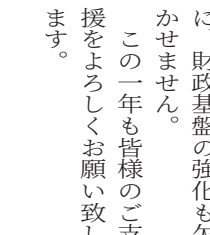
YMC Aの使命を広く伝えるため、会員との対話を深め、SNSを活用しながら多世代へ発信していきます。また、各事業部や地域コーディネーターと連携し、さまざまな方が参加できる機会を増やします。

賛助会では新たな仲間を迎え、YMC Aの価値を伝えます。募金活動は透明性を大切に、クラウドファンディングを活用

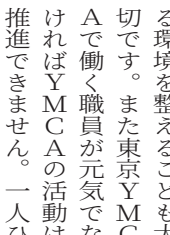


「子どもが愛されている」
「教育・保育事業部」
統括 堀 雄二

留学生など、対象学生の年齢や国籍、学習目的は多様です。少子化や大学全入といった課題に直面する中、専門知識や技術、国際的な視野と豊かな人間性を育む教育環境を提供しています。東京YMC Aが培った野外活動やリーダー育成、ボランティア活動を教育につながる、文化の多様性を生かした学びの場をつくり出します。5つの学校のネットワークを存分に生かし、青少年育成を通じて社会に貢献してまいります。



「子どもが愛されている」
「教育・保育事業部」
統括 堀 雄二



本部事務局は、東京YMC Aグループ3法人、及び各事業部と連携し、東京YMC Aが使命を果たしていくための基盤を強める働きを担います。

まず、東京YMC Aの願いと諸活動が広く社会に認知され、共感を広げていくために、広報活動を充実させます。IT技術の活用によってさらに良いサービスを提供できる環境を整えることも大切です。また東京YMC Aで働く職員が元気でなければYMC Aの活動は推進できません。一人ひとりがやりがいを持って活躍できるよう、人事評価制度や研修制度を整えます。東京YMC Aが未来に向けてYMC Aらしい働きを担い続けるために、財政基盤の強化も欠かせません。

この一年も皆様のご支援をよりしくお願致します。

教育・保育事業部

フィラデルフィアYMCA視察研修を実施

2月3日～8日、保育事業に関わる東京YMCAのスタッフ5人と横浜YMCAのスタッフ3人が、研修としてフィラデルフィアYMCAを訪れました。この研修の目的の一つは「日本との共通点や違いを知り、それを日々の保育実践の豊かさや深さに結びつける」ことです。そのため、フィラデルフィアYMCAが運営する3つの保育施設と2つのランチを視察しました。

特に興味深かったのは、就学前カリキュラムに組み込まれた「ソート」

また、6日間の研修で出会ったフィラデルフィアYMCAのスタッフの皆さんが、自分のYMCに誇りを持っていきがいAD 山口温子)



子どもたちが描いてくれた歓迎の絵を持って、フィラデルフィアYMCAのスタッフと。最前列右から松本数実さん（国際・総合教育事業部統括）、中谷綾さん（チャナコート保育園）、藤野恭子さん（チャナコート保育園園長）、矢田まゆみさん（横浜YMCA）、齊藤希世さん（教育・保育事業部統括）、中列右端が山口温子さん（保育園ねがい）、中列左端が森由美子さん（横浜YMCA）、中列左から2人目が織原信枝さん（横浜YMCA）



フィラデルフィアYMCAの保育室の様子

“いじめ”のない社会を目指して …… ピンクシャツデー

2月第4週の水曜日（2025年は2月26日）に、ピンク色のシャツや小物を身につけて「いじめ反対」を訴える「ピンクシャツデー」。この運動は、2007年に、カナダでピンク色のシャツを着た少年がゲイだといじめられたことに抗議し、皆でピンク色のシャツを着たことから始まりました。毎年、全国のYMCAがこの運動に取り組んでいます。

東京YMCAでは、2月26日前後に、ピンクに彩られたさまざまな場所で、子どもも大人も一緒にいじめや人権について考え、多様性への理解を深める取り組みを行いました。ハート型のカードやピンクシャツのキーホルダーなどのアイテムを使い、自分の体験を伝えたり、相手の気持ちを想像したりする活動を通して、いじめのない社会を実現するためにできること、すべきことを考える機会となりました。

また、今年も香港YMCAが参加し、香港でも「ピンクシャツデー」が展開されました。香港YMCAは、ピンクシャツデーを「子どもたちの間で“いじめ反対”の意識を高め、年齢・国籍・宗教・能力に関わらず、優しさ、団結、そして他者を支えることの重要性を強調する」機会と捉え、来年も参加する意欲を示しています。

にほんご学院、社会体育・保育専門学校



東陽町コミュニティセンター

東京YMCAの「ピンクシャツデー」の取り組みは、ホームページでご覧いただけます。（広報室）



国際協力一斉街頭募金を実施

バングラデシュの子どもたちの教育支援のために

3月22日、JR新宿駅周辺で国際協力一斉街頭募金を実施し、約90人のボランティアとスタッフが参加。バングラデシュの子どもたちの教育を支援するための募金を呼びかけました。参加者からは、「来日中のトロントYMCAの元キャンプカウンセラーが偶然通りかかり、募金をしてくれた。世界のYMCAのつながりを感じた。」という感想もありました。

東京YMCAは1998年から、バングラデシュYMCAが運営する

「Non Formal Primary Education」（以下、NFPE）という私設の学校を支援しています。農村の貧しいコミュニティーにあり、小学校に通っていない主に6～8歳の子どもが、3年間で初歩的な国語（ベンガル語）、算数、英語などを学ぶ学校です。NFPEの教師が生徒の親にも教育の重要性を伝え、動機づけをしていくことで、NFPEを卒業する子どものほとんどが、公立の小学校に編入して勉強を続けます。

街頭募金に先立つ2月14日に行われたバングラデシュYMCAとのオンラインによるスタッフミーティングでは、バングラデシュYMCA同盟のニブン・サングマ総主事からの報告がありました。2024年にバングラデシュYMCA同盟の結成50周年を祝う会に集まったNFPEの卒業生は、看護師になって病院で働いたり、企業に勤めたりして、教育が生かされていることを実感したそうです。NFPEの卒業生は優秀で大学に進学する人もおり、教育支援を続けている東京YMCAに改めて感謝が伝えられました。（広報室）



いんふおめーしょん INFORMATION インフォメーション

■早天祈祷会(5月)■

会員有志が聖書について自分の考えなどを語る「奨励」の後、皆で祈り讃美歌を歌います。クリスチャンでない方もお気軽にどうぞ。

日 時：2025年5月7日(水)
7：00～8：00

奨励者：星野太郎氏(東京YMCA総主事)

会 場：オンライン／山手センター
問合せ：会員部(03-6278-9071)

●●● 会員のご案内 ●●●

「会員」とは、東京YMCAの主旨に賛同し、会費によって活動を支えて下さる方のことです。YMCAは、青少年の健全な成長をサポートし、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるために、より多くの会員と共に活動していけることを願っています。



詳細はこちら



ワイズコーナー

Y'S MEN'S CLUB

Vol.26

ワイズが目指すユースエンパワメント
②増え続ける不登校児

全国の不登校児(小中学校)は、34万人を超え、この10年間増え続けています。何が不登校を増やしているのでしょうか？

現代は、間接体験で得る知識、娯楽やスリル感などは、スマホを通していつでも、いくらでもできる社会です。それと並行して、人と人の関係、人の想いや悲しみを感じる手段が欠如してきているのではないのでしょうか。

ワイズメンズクラブ国際協会では、Time of Fastと呼ばれる、一食を我慢してその分を献金し、困っている人たちへの支援活動に充てるという制度が世界中で行われています。そこで不登校児への取り組みをするプロジェクトを申請してみました。YMCAと共に考え、動き始める資金にしていきたいと考えています。不登校をテーマにミュージカルをはじめ、そのグループを応援するワイズメンズクラブが新しく誕生しました。YMCAのパートナーとして、環境、健康、教育という分野で何かできないかを考えています。一緒にやりませんか？(東日本区理事 山田公平)



「盛岡YMCAこども人権チーム」

動画でわかる
ワイズ
メンズクラブミャンマー地震
緊急支援募金のお願い

2025年3月28日にミャンマーで発生した大地震は、甚大な被害をもたらしました。ミャンマーYMCAからの緊急支援要請を受け、日本のYMCAは緊急支援募金を実施しています。この募金は、ミャンマーYMCAが行う支援活動のために用いられます。

東京YMCAは、日頃からミャンマー・ネピドーYMCAの活動をサポートし、交流しています。皆様のご協力をお願いいたします。



募金の詳細はこちら

【募金期間】2025年5月31日まで

【募金の送金先】

◆三井住友銀行 神田支店 普通 7631486

ザイ) トウキョウワイエムシエイ

◆web募金はこちら (クレジットカード払い)



【お問合せ】東京YMCA会員部(03-6278-9071)

東京YMCAメルマガ登録募集中

東京YMCAのプログラムやボランティアなどの情報をお届けするメールマガジンです。月1～2回の不定期配信。ぜひご登録ください。



登録はこちら

会員大会のご案内

東京YMCAは会則に則り、年に一度の「会員大会」を開催します。東京YMCAをお支えくださる会員や支援者の皆さまへ一年間の活動を報告するほか、会員の表彰や交流などを行います。どなたでもご参加いただけます。

日 時：2025年5月24日(土) 13：30～16：00
会 場：東京YMCA山手コミュニティセンター
参加費：無料
申込締切：5月16日(金)
問合せ：会員部



詳細はこちら

文化スポーツ教室「わくわく梅シロップ作り」

わくわくビレッジでは、四季を通じてたくさんの花々が私たちの目を楽しませてくれます。その中でもっとも早く咲きはじめる花のひとつに梅があげられますが、今回はお花を楽しんだ後の実を収穫して、梅シロップ作りを行いたいと思います。

※果実瓶等その他材料は参加費に含まれます。

【開催日】 5月18日(日)
【時 間】 10：00～12：30
【対 象】 どなたでも
【定 員】 10組
【持ち物】 汚れても良い服装・マスク・タオル・軍手・三角巾
【費 用】 1組／1瓶 3,960円
【申込み】 お電話又はフロントにて

詳しくはお電話またはホームページにてご確認ください

高尾の森わくわくビレッジ

☎ 042-652-0911

〒193-0821 八王子市川町55
www.wakuwaku-village.com

高尾の森わくわくビレッジはYMCAスタッフが運営しています